

## 仏教者による生活困窮者支援 ―戦後の浅草山谷地域を中心に―

大正大学非常勤講師 吉水岳彦

### 1、はじめに

「山谷」の名称の由来については諸説あり、明確ではない。江戸期には新鳥越（現在の台東区清川付近）周辺を指し、山谷村と呼ばれた地域である。もともと非人居住地域とも近く、貧しい人が多く住んでいた山谷村は、明治 2 年に浅草町と改称されて以後も、「木賃宿」と「下層労働者」の街となっている。大正期の関東大震災後、被災者を収容するための簡易宿泊所が設置され、山谷町と改称された昭和期に入っても、この簡易宿泊所を中心とした街であった。昭和 20 年 3 月の東京大空襲で灰燼に帰した後も、山谷は上野の地下道や都内の公園に溢れた「戦災浮浪者」と呼ばれる人々を収容する役割を担うことになる。さらに戦後の住宅難からこの地区に大勢の人々が流入し、徐々に日雇労働者の街が形成されていったのである<sup>1</sup>。このような歴史的経緯から、浅草山谷地域は生活困窮者が多く居住する地域として知られるようになった。

この地域における生活困窮者支援については、『アリの町のマリア』などに代表される、多くのキリスト者によって、戦後の復興期から現代にいたるまで行われてきている<sup>2</sup>。一方で、仏教者は戦前期には同地域で社会事業を盛んに行っていたが、戦後の生活困窮者支援における活動についてはほとんど知られていない。灰燼に帰した山谷にもともと教会はなく、支援活動の活発化と共に数を増やしていった。これに対して、寺院は戦前より多く存在し、戦後に再建されていくのであるが、戦後の復興期に生活困窮状態にある人々のために何もしてこなかったのであろうか。本発表では、あまりよく知られていない戦後の復興期から現代にいたる、仏教者の浅草山谷地域における生活困窮者支援の実態を明らかにするとともに、その活動の特色や時代の推移による活動内容の変化について論じる。

### 2、東本願寺と浅草寺の動向

- ①「浮浪者」の収容
- ②「浮浪者」の病院

### 3、親鸞信者梶大介と日蓮宗西川景文・鑒海

- ①炊き出しと子ども支援
- ②慈善カンパと「山谷なかま塚」建立供養

### 4、浅草山谷地域の寺院の活動

- ①青少年の健全育成支援
- ②葬送支援

### 5、ふるさとの会の無縁供養会

### 6、寺院による歳末助け合い運動

### 7、生活困窮者支援 NPO と協働する仏教者

### 8、まとめ

以上のように、戦後 70 年間の浅草山谷地域における仏教者の生活困窮者支援を考察することを通じて、現代の貧困問題に対する仏教者としての望ましい支援とはいかなるものかを考える糧としたい。

<sup>1</sup> 浅草山谷地域の歴史については、東京都城北福祉センター「山谷『現況と歴史』」（1971 年、佐竹印刷）参照。ちなみに、同書では浅草山谷地域を台東区清川 1・2 丁目、日本堤 1・2 丁目、東浅草 2 丁目、及び荒川区南千住 1・2・3・5・7 丁目と規定している。本発表の浅草山谷地域もこれに順ずる。

<sup>2</sup> 「モンテ・ローザの会」「小さいバラの子ども会」「黄十字友の会」「いこいの家学習会」「浅草北部協会」等、山谷にはアリの町のマリアと称された北原玲子たち以外にも、多くのキリスト系団体が形成され、セツルメント活動等が行われた。